

赤い羽根共同募金に今年もご協力を！

赤い羽根共同募金は、ことしも12月末まで募金をおこなっています。

NPO法人ともにでも10月からコミュニティカフェわっくわくのレジ前に募金箱を設置し、募金を受け付けています。また9日にはセブンイレブン倶知安基町店前にてワークショップようてい利用者と職員が街頭募金活動をしました。昨年一昨年と悪天候で活動できませんでしたが、今年は穏やかな天気で祝日だったこともあり、たくさんの方に募金をしていただきました。

昨年度共同募金会様から廃油石けん製造器具一式の助成金12万円をいただきました。当法人ではこれからも募金活動に積極的に協力していきます。みなさんのご協力をよろしくお願いいたします。



あの人を、すべての人を、支えたい。

赤い羽根共同募金は、あなたの町の子どもたち、高齢者、障がい者などを支援するさまざまな福祉活動に役立っているほか、地震や豪雨等による大規模災害発生時には、「災害ボランティアセンター」の設置や運営など、被災地支援にも役立ちます。今年も10月1日から、71回目の共同募金運動が始まります。



illustration by PGG
© Crypton Future Media,INC. www.piapro.net piapro

精神科医 土田正一郎の

診療室で考えていること(仮)



30歳くらいまでは、数えるほどしか飛行機に乗ったことはなかった。だから雲の上がいつも快晴であることは知らなかった。何故なら見たことがなかったからだ。離陸と着陸をするときに雲の層を通過するが、その時の揺れは嫌いだ。何故なら小心者であるからだ。

「晴れのち曇り 時々雨 所により雷雨」なんて予報があっても、「雲の上はいつものように快晴」である。見えなくても、いつも快晴の空がそこにある。 ともに顧問(自称)

その43 天気予報

各事業報告～10月末現在

- ◆障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい 契約/移行2人、継続B23人 見学/3団体1人 体験/1人
- ◆グループホームよろこび 利用者/21人(定員22人) 見学/2団体、体験/1人
- ◆法人会員 正会員20人、賛助会員 団体2 個人89人
- ◆寄付物品 牛乳パック、菓子
- ◆今年度寄付金 のべ25人 562,752円

編集後記

アナログ時計のカタログ写真はなぜ10時10分ごろを指すのか。それはシンメトリー短針と長針の位置が左右対称で見えが良いからだそうです(諸説あります)。当広報紙の写真もたくさんある中から出来ばえの良いものを選んでます。自分も中身、外見ともに磨いていきたいです。(かわさき)

通信 ともに

第54号



2017年11月10日発行

発行者/認定NPO法人ともに
住所 〒044-0053 虻田郡倶知安町北3条西2丁目
でんわ (0136) 55-5828
FAX (0136) 55-5829
Eメール info@npo-tomoni.com
公式ホームページ http://www.npo-tomoni.com
公式ブログ http://blog.canpan.info/npotomoni/

今月の一枚



秋の彩り 製造部商品*1

倶知安町長との再懇談実現～住居支援部会

10月25日、倶知安町保健福祉会館で羊蹄山ろく地域自立支援協議会の住居支援部会がおこなわれ、第50号でお伝えした約束通り西江栄二倶知安町長との再度の懇談が実現しました。

住居支援部会では8月に、羊蹄山ろく地域で障がい者に必要な住居を把握するため、病院や養護学校・支援学校を含めた支援者向けアンケート調査を行いました。その結果一人暮らし希望者が64人、グループホーム生活が望ましい方が93人いて、さらに、現在養護学校や支援学校の寮に入っている羊蹄山ろく地域の生徒が40人いることもわかりました。これほどたくさんの住居ニーズがあるが入れる住居がないのが実情なので、なんとか解決策を一緒に考えてほしい、と厚生労働省・国土交通省が合同で出している「公営住宅を障がい者グループホームに活用するために」という施策を示して西江町長に訴えました。



西江町長は「いくつかの町営住宅が建替え更新の時期で、前回の住居支援部会との懇談で町住のグループホーム活用案も視野に入れたが、町住希望者が多く経費もかかるため現時点では難しいと考えている」と言われました。しかし町有地活用の話では、まだ私たちのこれからの取り組みに希望が持てるような印象を受けました。

地価の高騰で障がい者の住居課題はますますひっ迫しています。地域で協力し連携しあいながらなんとか打開できる策を探していければ、と気持ちを新たにしました。(こばやし・かわさき)



じゃがいも“さやあかね”好評発売中! 地方発送も承ります。

9日 ノルディックウォーキング

旭ヶ丘スキー場をぐるっと周る約2.6kmを歩きました。コース上は紅葉でとてもきれいな風景。穏やかな天気でも過ごしやすい気温だったので、参加者は気持ち良い汗をかいていました。振り返りではまた春に芝桜を観に歩きたいと話していました。歩いている写真を撮りたかったのですが「恥ずかしいから・・・」と後ろ姿、ごめんなさい。

**12日 北海道アールブリュット³展見学**

製造部の商品を委託販売している木ニセコさまから話をいただき、見学に行きました。年代も絵の材料も異なる9人の作家による個性的な絵画が展示されていました。利用者の一人は小さな図形を集めてできた絵画が特に気になると話し、興味深そうに見入っていました。

**21日 自由空間day**

今回は利用者の発案でホットケーキをつくりました。材料を買い、つくって食べるまで利用者のみなさんで自主的にしました。

ホットケーキを初めて作ったという“がんちゃん”は「おいしくできた。また作りたい」と作ることの喜びを笑顔で話していました。

**22日 京極町ほかほかまつり**

京極町社会福祉協議会のおまつりに今年も出店しました。帽子を中心に8,000円の売り上げがありました。今年もありがとうございました。

10月27日、グループホームまどかで恒例の夕食会を開きました。今回はワークショップようてい利用者も5人集まって盛大に夕食を食べました。メニューはミニ海鮮丼、のり巻き、煮込みハンバーグ、から揚げ、ぎょうざ、おでんなどでした。

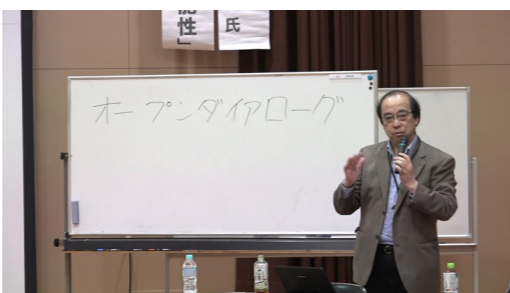
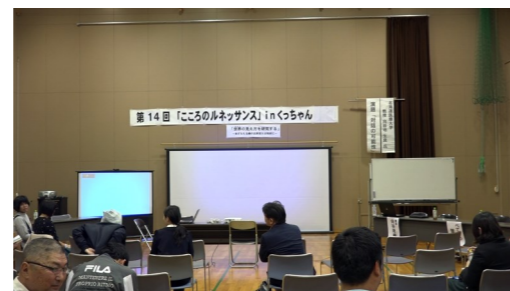


10月14、15日の2日にわたり、NPO法人MiMaTa様主催、当法人が後援する「こころのルネッサンス」が開催されました。

今回は「世界の見え方を研究する」というテーマで、1日目は講演と自己研究^{*2}、2日目は「生き方学会」と称する自己研究の発表でした。1日目の自己研究では、ワークショップようていを卒業し地域活動支援センターの支援員として勤めているEさんが、何かとコーラを飲みすぎて糖尿病になってしまう苦勞を参加者と研究しました。研究をしていく中で人とのつながりを増やすことで、コーラのことを忘れるようにする。その研究テーマを「コーラも糖尿病管理も甘い」と名づけて継続研究することになりました。Eさんは「みなさんの意見を取り入れてがんばっていきます」と決意を新たにしていました。

講師の向谷地生良先生は「自己研究の材料として良い苦勞を持っている。ここで研究したことを1年間実践し、次回のこの会で発表してほしい」とEさんの今後の取り組みにエールを送りました。

Eさん、一年間の成果を期待していますよ。



10月3日、小樽で就労支援事業所利用者への合同企業見学会が開かれ、ワークショップようていの就労移行支援利用者2人が参加しました。高齢者介護施設とダスキンを見学し、仕事に就くうえでの基本的姿勢を学びました。

2人は12日に中小企業センターにて、障がい者就労・生活支援センターひろばが主催した「ジョブフェス」にも参加しました。こちらは履歴書の書き方、面接のしかたなどをシミュレーションし、就職活動の方法について体験しました。

参加したHさんとAさんに今回参加しての感想と就職への思いを聞きました。

Hさん・・・今回参加して、敬語などの言葉づかいをもっと学ばなければと思った。履歴書も志望動機がなかなか書けず難しかった。もっと勉強しなければと思う。

Aさん・・・企業見学をしていて、相手に対して親切に対応し、不快な思いをさせないようにするのが必要だと思った。履歴書は以前の就職活動でも書いたことはあるが、履歴書を読む人の心理を理解し、その人の立場に立って読みやすい履歴書を書くのが良いのではないかと感じた。

